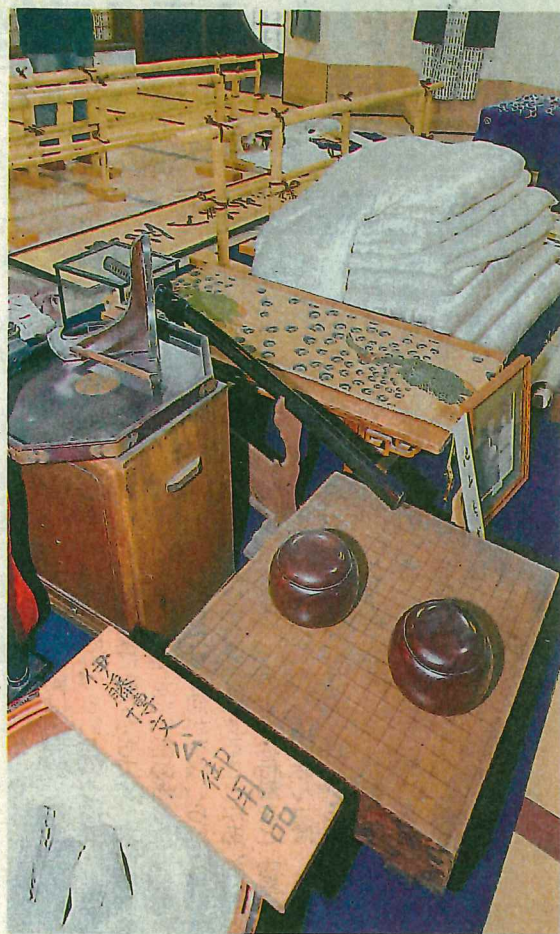


石原裕次郎ら文化人写真／伊藤博文使用の布団

旧料亭「魁陽亭」お宝続々

明治期開業の小樽市指定歴史的建造物で旧料亭「魁陽亭」(住吉町)に残る資料の調査が進んでいる。保存改修しホテルとともに一体開発する総合不動産業インフィニットルミナス(東京)と小樽商大が共同で取り組み、建物の歴史を生かした観光資源化を目指す。(有田麻子)

魁陽亭は大正・昭和初期の政財界人や石原裕次郎ら文化人が訪れた。初代首相の伊藤博文が使った布団をはじめ、著名人ゆかりの品が残る。今年5月に小樽市が追加認定された日本遺産「北前船寄港地」の構成文化財でもある。2年前、同社の佐藤勉社長が「歴史を生かした再生事業」を同グループ所有の市内の建物に移動し整理している。調査は来年3月末まで続け、情報をデータベース化する。同大の「商大生が小樽の活



伊藤博文が使った布団などが並ぶ亭内の「松風の間」(いずれも金本綾子撮影)

亭内に残る石原裕次郎の写真(手前右)や1906年(明治39年)の樺太国境画定会議後の祝宴の様子(手前左)の写真



樽商大など調査 観光資源化へ



性化について本気で考えるプロジェクト(マジプロ)の学生も調査に参加し、ネットで情報発信する。1年の大松南実さん(19)は「冬休みには小学生を対象に、北前船にまつわる歴史的建造物を案内しながら魁陽亭の建物まで歩くツアーを企画したい」と話す。2015年に営業を休止後、老朽化で閉鎖した旧魁陽亭の外観

1896年(明治29年)の延焼後に再建されたとみられる大広間「明石の間」について説明する高野研究員



樽商大卒業生に 学長が現状報告

江別緑丘会

【江別】小樽商大OBでつくる「江別緑丘会」(石本康平会長)の会合が、市内のレストランで開かれ、約30人が親睦を深めた。

会合は11月30日に開かれた。同大の和田健夫学長が来賓に招かれ、和田学長は、2022年4月の実施を目指している同大、帯広畜産大、北見工業大の運営法人の統合に関連し、「これからは大学として生き残るため、地域に根差した教育をしながら、文系・理系が連

江別緑丘会の会合で、現在の小樽商大について話す和田学長



携して新しい時代にふさわしい人材を育てていく」と話した。

このほか、現役生3人が、地域に役立つビジネスについて発表した。

(河田俊樹)